新聞記事における誘導に関する一考察
−話題や言語形式に着目して−

名嶋義直
東北大学大学院文学研究科

1.　はじめに

1.1　背景

2011 年３月 11 日の東日本大震災，それに続く東京電力福島第一原子力発電所事故（以下，原発事故）から３年以上経過したが，脱原発を目指す世論は以前として多数を占めていると考えられる。たとえば，2014 年 1 月 25 日−26 日に実施の朝日新聞世論調査によると，原発の再稼働に反対は 56%，賛成は 31%となっている。2014 年 2 月 15 日−16 日実施の朝日新聞世論調査でも，原子力発電の利用について反対が 48%，賛成が 34%という結果が出ている。しかし，理念として脱原発を志向する一方で，日々の生活を顧みれば，事故の「風化」も着実に進んでいるといえるのではないだろうか。多くの人にとって，もはや原発事故は「過去のこと」・「福島のこと」であり，震災前・原発事故前をなんら変わらない生活スタイルをとり，利便性を追求するもとの生活に戻ってしまったのではないだろうか。なぜ人々はこうも簡単に変わってしまったのだろうか。

1.2　先行研究

名嶋（2013a），(2013b)，(近刊）は原発事故に関する新聞報道記事の見出しを分析し，新聞報道に見られる「権力の意図」を明らかにしている。名嶋（近刊）ではその「権力の談話行動の実践」を動機づけている「意図」として，大きく「既成事実化」と「非存在化」の２つがあり，それぞれにいくつかのより具体的な意図が観察されるという。「既成事実化」を達成しようとする意図には「前提化」・「権威化」・「負の側面の焦点化」・「低評価」があり，「非存在化」を達成しようとする意図には「焦点のすり替え」・「事態のすり替え」・「全体の中での部分化」・「別事態の焦点化」があると述べている。そしてそれらの意図に基づく談話行動の実践が「事態からの心理的分断」を引き起こし，それが「風化・忘却」進めていく原動力となり，さらに「事態からの心理的分断」を再生産していくと主張している。もし一連の名嶋研究が述べることが妥当であれば，なぜ人々はこうも簡単に変わってしまったのだろうかという問いに対して一応の回答を与えることができる。しかし，果たして新聞の読者は本当にそのような読みを行うのであろうか。

1.3　研究課題と方法論

そこで，読者が新聞記事の見出しをどう読むのか調査し，一連の名嶋研究の主張と比較・対照

することを通して，実証的な側面から権力の誘導の実態を明らかにすることを計画した。方法論としては，以下の通りである。大学生と大学院生 10 名（10 代後半～50 代前半）に質問紙調査（自由記述）を実施する。新聞記事見出し 31 例を提示し，まず，それを読み直感的な感想を記入してもらった。次に，記事の見出し内のいくつかの語や表現を指定し，その指定された表現を読み，直感的な感想の記入を求めた。本発表では，記事の見出しを例に（紙幅都合で出典省略）２つ目の設問である「指定された部分をどう読んだか」について，その結果を示し，誘導されやすいものとそうではないもの，回答者間でばらつきがあるもの，に分けられることを述べ，考察を行う。

2.　結果と考察１―誘導されやすいもの―

2.1　美談と悲話

現状を肯定したり無批判に受け入れたりする回答が比較的多く見られたのは以下のような見出しであった。下線部は調査者が「指定した部分」である（以下，同様）。

（１）極限状態、原発と闘う　東電本店・官邸とも　吉田元所長死去

（２）フラガールズ甲子園:笑顔と元気で観衆魅了　福島・いわき

（３）コメ作付け，解除されても再開わずか１割…福島

（４）茨城産シラス:買いたたかれ３割安　汚染水漏れで風評被害

これらの見出しは名嶋（近刊）でいう「焦点のすり替え」・「事態のすり替え」と言えるものである。美談や悲話は読者の情緒に働きかけ，肯定的で前向きな感情や同情・哀れみといった感情を想起させる効果があると言える。それが，そもそも国や東京電力に責任があり充分な対応・補償がとられていないことが事態の根本にあるという本質を見えにくくさせていると言えよう。

2.2　権威づけ

以下の見出しについても肯定的な感想が多く見られた。

（５）IAEA 事務局長、海洋モニタリングの専門家を派遣へ　福島第一汚染水問題

（６）福島の桃「おいしい」と両陛下…農家と懇談

これらの見出しは名嶋（近刊）でいう「権威化」と同じ特徴を持つと言えるものである。人は専門的知識や技術を持っている人を敬うことがある。その性向を利用すれば，疑いや批判を抱かせることなく人々を誘導していくことが可能になる。天皇も敬意を抱く人が多いため利用できる。

2.3　困難さ

名嶋（近刊）で言う「負の側面の焦点化」に関する見出しでも肯定的な感想が見られた。

（７）国民目線どう判断　難しい過失認定　東電原発事故　有罪獲得に高いハードル

一般に，人は何かを成し遂げようとしたとき，それが困難であればあるほど諦める度合いが強

くなる。ある事態を，いかに困難さを伴っているかに焦点を当てて報道すれば，徐々に人々はいろいろなことを諦めるようになる。諦めることは現状を肯定し受け入れることでもある。社会にそのような空気が広がれば，現状を変えたくない権力にとっては好ましい状況になる。

2.4　低評価

「低評価」もそのまま受け入れられやすいように思われた。

（８）九州の再生可能エネルギー　稼働，買い取り認定の１割にとどまる

自身に向けられる批判を少しでも小さいものとするために，事実を低く評価することがある。事実を小さく見積もれば批判も小さくなるからである。これも誘導の一種であると言えよう。

3.　結果と考察２ー批判的読みを誘発しやすいもの一

3.1　危機感を抱くもの

（９）汚染水貯蔵，16 年度末に 160 万トンも…東電

(10) タンク周辺の雨水，海に　福島第一　台風で堰の弁開放

これらは「負の側面の焦点化」であるが，危機感が大きい数字や事象は，それだけで読者に大きなインパクトを与えるため，それ以上の思考が展開しないのではないだろうか。そのため，名嶋（近刊）の言うような「諦め」などの無力感にはつながらなかったのではないかと考えられる。

3.2　副詞表現

副詞表現を使用した見出しでは，名嶋（近刊）とは逆に，批判的・懐疑的な感想が多く出た。

(11) 福島原発事故、「がんへの影響ごく小さい」　京大が住民４６０人被ばく分析調査

(12) 汚染水「影響は全体として制御」経産相が強調

副詞表現は用言を修飾するものである。ここで言う「修飾」とは「限定」と言ってもよい。そのような，ある意味で有標の修飾部分を読者は批判的に読んでいることがわかった。(11) (12) の程度副詞を例に挙げれば，「低く見積もる」表現にはその真偽を疑い，概略的な言い方にも「厳密には偽である」という推論を行っている。発話する側はうまく誘導できると思っているかもしれないが，読者は副詞表現に敏感に反応し，直感的に批判的な読みを行っていると言える[1)]。

3.3　条件表現

条件表現を用いた見出しに対しても批判的・懐疑的な感想が多く観察された。

(13) 除染完了地域，線量高ければ再除染も…環境省

人は「A ならば B」という文を読むと「A でないならば B でない」という推論を行うことがあると言う。この例についても「高くなければ除染しないのか」という意見が複数あった。推論を

行うということは，言われていることだけを理解しているのではなく，広い意味で批判的検討を行っていると言える。条件文はどちらかというと誘導されにくいのではないかと思われる。

4.　結果と考察３―個人差が出やすいもの―

一概に肯定・否定のどちらか一方に傾きやすいとは言いにくく感じるものもあった。

（14）廃炉費用の不足，電気料金で…秋にも改正方針

（15）福島の避難指示区域の再編完了　予定より１年以上遅れる

既有知識，原発事故に対する向き合い方，脱原発を志向するか否か，倫理優先か経済優先か，といった個人の理念などが見出しの解釈に影響を与えていると思われる。

5.　まとめ

対象者が 10 人という限られた調査であったが，その中で「誘導されやすい記事」があることがわかった。その点において一連の名嶋研究で主張されていることは一定の妥当性があると思われる。一方で，「誘導されにくい記事」・「批判的・懐疑的感想を想起させやすい記事」があることも明らかになった。これらの研究成果はメディアリテラシー教育に活用することが可能である。

注

１）原発事故当初，枝野官房長官（当時）の「直ちに健康に影響はない」という趣旨の発言を聞いて，直感的に「後からは影響が出るかもしれない」と感じた人は多いであろう。それと同じことである。

＊本発表は，科学研究費補助金事業（学術研究助成基金助成金）挑戦的萌研究 課題番号：25580084 代表者：名嶋義直，による研究成果の一部である。

参考文献

NAJIMA, Yoshinao. (2013a) ‘Critical Discourse Analysis of Newspaper Articles about the Fukushima Nuclear Power Plant Accident - How the Power is Going to be Maintained -’ poster presentation, International Pragmatics Association 13th Conference, 2013.9.8-13, New Delhi, India.

坂原茂（1985)『認知科学選書(2) 日常言語の推論』，東京大学出版会.

名嶋義直 (2013b)「福島第一原子力発電所事故に関する新聞記事報道が社会にもたらす効果について」,『ハノイ大学第二回国際シンポジウム紀要』, pp.247--260. ハノイ大学

名嶋義直（近刊)「福島第一原子力発電所事故に関する新聞記事報道が社会にもたらす効果について―見出しが誘発する読者の解釈―」『言語学者，３．１１原発事故後のメディア言語を斬る』，ひつじ書房.

ルート=ヴォダック・ミヒャエル=マイヤー（編著)，野呂香代子（監訳）(2010)『批判的談話分析入門--クリティカル・ディスコース・アナリシスの方法』，三元社.